

コインに描かれた植物

前田 米太郎

兵庫生物Vol. 7 No. 4に“コインに描かれた動物たち”を書いたので、今回は植物について書いてみたい。

コインの収集や図柄などについての一般的な説明は、“動物たち”に書いたので省略する。コインは温度や湿度をあまり気にしなくてよいので、切手より気楽に集められるのが長所だとそのときに書いた。このことはまちがいないのであるが、もう一つの長所である「コインは切手ほど多くの種類が発行されないから集めやすい」は、最近必ずしもそうはいえない状況になってきた。それは1970年代になってからの、特に最近数年間の記念貨の発行数は、目をみはるものがあるからである。よその国の行事であれ偉人であれ、何でもかでも切手にしてもうけている国があるように、コインも自国内の通用のためというより、世界の収集家めあてにつくって、外貨獲得に役立てるといふ感じの国が多くなる傾向にある。コインは切手ほど安価ではないから、記念貨ラッシュになると一介のサラリーマンのふところでは、とても集めきれものではない。

その例をオリンピック記念貨にとってみると、

	開催地	記念貨の種類	材質
第15回	1952年 ヘルシンキ	1種	銀
16	1956 メルボルン	なし	
17	1960 ローマ	なし	
18	1964 東京	1種	銀
19	1968 メキシコシティ	1種	銀
20	1972 ミュンヘン	6種(4ミント)	銀
21	1976 モントリオール	29種	金1, 銀28 プルーフ貨を入れると58種
22	1980 モスクワ	43種	白金5, 金6 銀28, 白銅4, プルーフ貨を入れると86種

あとになるほど種類がふえてきている。モントリオール大会の記念貨を、58種全部そろえるには、40~50万円が、モスクワ大会のものは、86種もあって、しかも金・白金が多いから、さらに高額のものになろう。

モントリオール大会のものは、多すぎて評判を落として、今なお売れ残っていて、発売当時(1974~)の値を割って取り引きされていると聞いている。モスクワ大会記念貨は86種という数から考えると、そう簡単には売り尽せないだろう。

記念貨にFAOコインといって、農・牧畜・漁業振興

のため、外国の収集家に売って外貨をかせぐコインがある。これは数多くの開発途上国で、1970年ごろから発行が始まった。アルミ貨あり、銅貨あり、銀貨ありで、同じ国が何回も図柄を変えて出すので、相当数の種類になっている。発行されるコインの数がこのように爆発的にふえてきたので、これらを集めるのは容易な事ではない。

I 我国のコインに見られる植物

明治3年に始めて近代的な貨幣が我国で発行されたが、この年に発行された金貨(20・10・5・2・1円)には、花の咲いた菊(右)と桐(左)の枝が錦旗を囲んで描かれ、上下にも菊紋と桐紋が配されている。また銀貨(1円・50・20・10・5銭)には、上の中央に菊紋、その左右に桐紋が描かれ、明治6年から発行の銅貨(2・1・半銭)には菊紋がついている。

その後いろいろのいきさつがあつて、竜が鳳凰や旭日



桐(左)と菊(右)の枝

菊紋(上)と桐紋(下)

に変わっていったが、菊と桐の枝や菊紋桐紋は変わらずに描かれ続けてきた。

菊は古来(鎌倉期以降)からの皇室の紋章であるが、桐もまた皇室をあらわす紋章である。すなわち、桐は鳳凰のすむ木として古くから中国で尊ばれてきたもので、我国でもこの思想から、天皇の袍(ほう・衣冠束帯の時に着る上着)の模様は桐竹鳳凰をつけ、その他の調度や器具にも菊花とならんで、この模様が多く用いられてきた。このようないきさつから貨幣にも桐紋がつけられたものである。

明治、大正時代は、菊と桐に代表されるが、明治30~38年に発行された5銭白銅貨と、明治31年~大正4年の1銭銅貨には、稲が描かれている。「豊草原の千五百秋の瑞穂の国」の日本国をシンボライズする稲が、皇室の菊・桐とならんで描かれている。稲は国民をあらわしたものであろうか。あるいは「農は国の大本なり」といわれた農業をあらわしたものであろうか。

昭和に入っても、菊と桐はそのまま受け継がれるが、これに国花としての桜花が加わってくる。昭和19年にな

って金属不足から陶貨が造られたが、10銭には菊紋・桐紋・稲が、5銭には菊紋と橘花が、1銭には菊紋と富士山が描かれている。しかしこの貨幣は使用されぬまま終戦を迎えた。

戦後になってコインの図柄は大きく変わる。昭和20・21年の10銭アルミ貨には稲が描かれ、21年の50銭には小麦、23年の1円には橘花が描かれ、昭和23年の50銭を最後に、紋章としての菊花は貨幣から姿を消した。

その後、梅（昭23・24年5円）、稲（24年～5円）、桜（昭32・33年、42年～100円）、稲（昭34～41年100円）菊（昭30～33年、34～41年、42年～50円）が発行された。ちなみに10円はときわ木、1円は若木をあらわしている。東京オリンピックの1,000円記念貨には富士と桜が描かれているが、芸術的にも価値の高いものといわれ、外国でも好評を博している。昭和53年の天皇陛下在位50年記念貨も美しい硬貨であるが、これにはひさびさに菊紋が用いられた。



稲と桜



橘花

II 外国コインに描かれた植物

外国のコインには、オリーブや月桂樹の枝が模様としてよく用いられているが、図案化された植物を省くと、植物コインは動物のそれよりも少ないようである。

ほとんどの現行コインが動物の図柄という国は、アイルランド、インドネシア、オーストラリア、カイマン、ガンビア、カナダ、サンマリノ、シンガポール、ノールウェイ、バルバドス、パナマ、パプアニューギニア、バージン諸島（鳥類）、フオー克蘭ド、ベリーゼ（鳥類）モーリシャスなどである。一方植物コインの多い国は、西サモア、中華民国（台湾）、レバノン、旧南ベトナムなどで動物に比べきわめて少ない。

次に各国のコインに描かれた植物を挙げてみるが、複数の植物コインを出している国、珍しい植物をコインにしている国について書いてみる。長くなるので漢字で書いたものもある。またあまり古い時代のコインは調べにくいので、最近50年間くらいのものについて整理してみた。

アルジェリア	小麦、オリーブ
オーストリア	エーデルワイス、ブドウ、小麦
パナマ	パイナップル、ハイビスカス
バングラデシュ	水蓮、稲、黄麻
ブラジル	サトウキビ、大豆
カナダ	砂糖楓※1、オキナグサ、ハナミズキ

チリ	コピウエ※2
中華民国（台湾）	胡蝶蘭、梅、松、春蘭、カトレア
コスタリカ	カトレア、コーヒーノキ、カボック
クック島	タロイモ、ハイビスカス、柑橘類、お茶の木、ラン類
キプロス	キプロス杉、ブドウ、小麦、西洋梨
チェコスロバキア	カーネーション、セイヨウシナノキ
カメルーン	バナナ、カカオ、ワタ
エジプト	トウモロコシ、小麦、月桂樹
ガンビア	ピーナッツ、ヤシ
イギリス	アザミ、バラ、シロツメクサ、ニラ
ガテマラ	リカステ（ラン）、ユリ
イスラエル	小麦、オリーブ、ヤシ、ザクロ、シユロ、大麦
イラク	ヤシ、小麦、タバコ
レバノン	レバノン杉※3、ブドウ
マリ	トウモロコシ、稲
マレーシア	タケ
マン島	カミルレ（カミツレ）
メキシコ	サボテン、イネ科
ネパール	ジャクナゲ、小麦
ニュージーランド	木生シダ、アメリカデイコ
ナイジェリア	カカオ、ヤシ、ウリ、5弁の花（コクタス?）
オーマン	ライム果（柑橘類）、カーネーション
パナマ	ペリステリア（ラン）、イネ科
ペルー	カンツア※4、キナ、月桂樹
ルワンダ	イネ科（キビ?）、コーヒーノキ
ソマリア	グレープフルーツ



タケ（南ベトナム）



サトウカエデ（カナダ）



フヨウ（韓国）



エーデルワイス（オーストリア）



キプロス杉

南アフリカ	極楽鳥花, ヤマモガシ, プロテア (ハナクジャクサボテンに似た植物) アガパンサス, カラー
韓国	稲, ムクゲ
南ベトナム	稲, タケ
スワジランド	パイナップル, サトウキビ
タンザニア	バナナ, トウモロコシ, サトウキビ
トンガ	トウナス, スイカ, ヤシ, トウモロコシ, ウリ類, バナナ
チュニジア	ナツメヤシ, オリーブの実, 小麦
ウルグアイ	小麦, セイボ (アメリカデイコ)
西サモア	パイナップル, ヤシの芽生え, タロイモ, カカオ, バナナ, ココヤシ

※1 サトウカエデ *Acer saccharum*

1534年フランス人がケベック州東端のガスピー岬に始めて植民地をつくったが、開拓初期、セントローレンス河畔に移住したパイオニア達は、サトウカエデから出る樹液をすすって生活した。この開拓の苦勞を記念して、サトウカエデをカナダの国章とした。

※2 コピウエ (*copihue*) *Lapageria rosea*

ユリカズラ, チリーの国花, チリー特産で一属一種。ユリ科のツル性植物でサルトリイバラに似る。大森林の中で、緋色でロウ様光沢のある花が釣り鐘のように垂下して咲く。英名を *Chilean bell flower* という。

※3 レバノン杉 *Cedrus libani*

かつてはレバノン全土をおおっていたが、オットマン帝国時代征服者によって乱伐が行われ、現在は絶滅の状態になっている。3,000m級の山腹に僅か3ヶ所残っているのを国が保護している。強く、古く、神聖な樹の姿は、国を象徴する木として国民から敬愛され、国章にされている。

※4 カンツア *Cantua buxifolia* ハナシノブ

1~2mの落葉低木で、インカ帝国の遺跡のある4,000m以上の高原に春咲く。オシロイバナに似た花で垂れ下って咲く。インカ時代、寺院の装飾にも使われており、美しい乙女が、この花に変わったという伝説があり、魔法の木とされてきた。英名を *Inca magic flower* という。

以上各国のコインを見て戴くと、最もよくでてくるのが小麦(40か国)である、これはFAOコインの多くに描かれているからである。続いて多いものは、ヤシ(15か国)、オリーブ、稲・バナナ(10か国)、トウモロコシ(8か国)、ブドウ、ハイビスカス、ユリ、サトウキビ、月桂樹(5か国)、パイナップル、カトレア、柑橘類(4か国)等がある。食糧になる植物の図は、ほとんどがFAOコインにでているものである。



木生シダ(ニュージーランド)



イネ(南ベトナム)



セイボ(ウルグアイ)



コムギ(イタリア)



カトレア(台湾)



ハス(インド)

Ⅲ コインに描かれた植物の分類

これらの植物を牧野新日本植物図鑑(北陸館)に従って分類すると次のようになる。

コケ植物門以下なし、ただし海藻がカイギユウやウミガメの背景に描かれているが、何であるか不明。

シダ植物門 木生シダ

裸子植物門 アカマツ・レバノン杉・キプロス杉

被子植物門

双子葉植物綱

離弁花亜綱 麻・梅・桜・梨・バラ・シロツメクサ
ナンキンマメ, 大豆, デイコ, ハイビスカス, ムクゲ, オキナグサ, 柑橘類, 橘, グレープフルーツ,
ヤマモガシ科, ブドウ, 蓮, 水蓮, オリーブ, カーネーション, カカオ, カシワ, カボック, 月桂樹,
サボテン, ザクロ, サトウカエデ, シャクナゲ, ハナミズキ, ワタ

合弁花亜綱 ウリ科, スイカ, トウナス, キク, カミルレ, アザミ, エーデルワイス, アサガオ, タバコ, キリ, コーヒーノキ

単子葉植物綱

顕花目 イネ科, 稲, 小麦, 大麦, キビ, サトウキビ, トウモロコシ, タケ

ヤシ目 ココヤシ(ヤシ), ナツメヤシ, シュロ

サトイモ目 タロイモ, カラー(カイウ)

ツユクサ目 パイナップル

ユリ目 ユリ, ニラ

ショウガ目 バナナ, ゴクラクチョウカ
 ラン目 カトレア, リカステ, 胡蝶蘭, ペリステリア,
 エラータ(コバトラン), バニララン, シュンラン, バンダ

園芸品種はコスモポリタンであるからかも知れないが、ほとんど描かれていない。チューリップ, ヒヤシンス, グラジオラス, ルピナス, 金魚草, ダリア, アマリリス, クレマチスなど美しいものがあるし、野生のものでもアヤメ科のものや, スイセン, サギソウ, カタクリなど。孢子植物にもシダ, スギゴケ, キノコなどと, コインむきのものもある。ラン科でもデンドロビウム, パフィオペディラム・オンシジウムなどが全然みられない。将来これらがコインの図柄に選ばれるのを楽しみにしたい。



バナナ(カリブ海地域)



トウモロコシ(ザンビア)



ヤシ(ガンビア)



ピーナツ
(ガンビア)



ブドウ(キプロス)



ウリ(トンガ)



レバノン杉

IV 食糧・自然保護・人間

1. FAOコイン 先ののべたように、1970年ごろから開発途上国の食糧増産のため、通貨としてでなく収集家のためのコインが多数発行されている。FAOというのは、Food and Agriculture Organization(国連食糧農業機関)のことで、世界の食糧生産と分配の改善と生活向上を目的とした組織である。これらのコインには、麦, 稲, トウモロコシなどの農作物や魚な

どが描かれ、また産児制限を表わすおとな2人と子ども2人の図が描かれている。そしてこれらのコインには、次のような言葉(標語)が書いてある。

ガンビア	Food for mankind
インド・スリランカ	Grow more food
ジャマイカ	Let us produce more food, Forestry for development
マリ	Developpon La Production
ネパール・ガイアナ, トリニダードトバコなど	Food for all
シンガポール	More food from the sea
トンガ	Planned families, Food for all
ウガンダ	Produce more food
ザンビア・カリブ海地域国	Grow more food for mankind

食糧不足にあえぐ国が多い中において、食糧はじめほとんどすべての物質を輸入にたよらなければならない我が国が、ぜいたくな生活をしている現状を考えると、これらの標語が、苦しい飢餓地獄からの絶叫のように聞こえ、我々の生活態度に反省をうながしている警鐘のように思えてならない。

2. 自然保護キャンペーンコイン

新聞紙上に報ぜられたのでご覧になった方もあると思うが、イタリア半島の北部にある小さな共和国サンマリノから、「自然環境を守れ」とよびかける通常貨が1977年に鑄造された。その図柄を紹介すると

- 1 リラ たくさんの星に囲まれた緑の地球
- 2 リラ 地球に恵みをもたらす青く深い海
- 5 リラ 酸素を含む大気と星に囲まれた地球
- 10 リラ 産業の発達による公害が地球をけがしてきた……大きな足の裏
- 20 リラ 人類のまいた殺虫剤によって自然の均衡が破られた……無気味な掌
- 50 リラ 人類は空気さえも掌中にあるとおごり、汚してきた……宇宙につき出た5本の指
- 100 リラ むちゃな化学薬品の使用により地球は傷ついた……ぐさりと傷の入った地球
- 100 リラ 汚染された水は輝く魚鱗も見えなければ、プランクトンの恵みも失われた……骨だけの鳥
- 500 リラ 最後の生物も空から落ち、予測できぬ事態に……落ちる鳥

参考文献

藤沢	世界のコイン	保育社
中村	日本のコイン	保育社
R.S. ヨーマン・岡	世界の現行コイン	泰星
〃	近代世界コイン	泰星
松下	コイン百話	平凡社
藤沢	国のシンボル	頌文社
月刊収集 Vo. 2 No.10~Voll. 4 No. 8		書信館